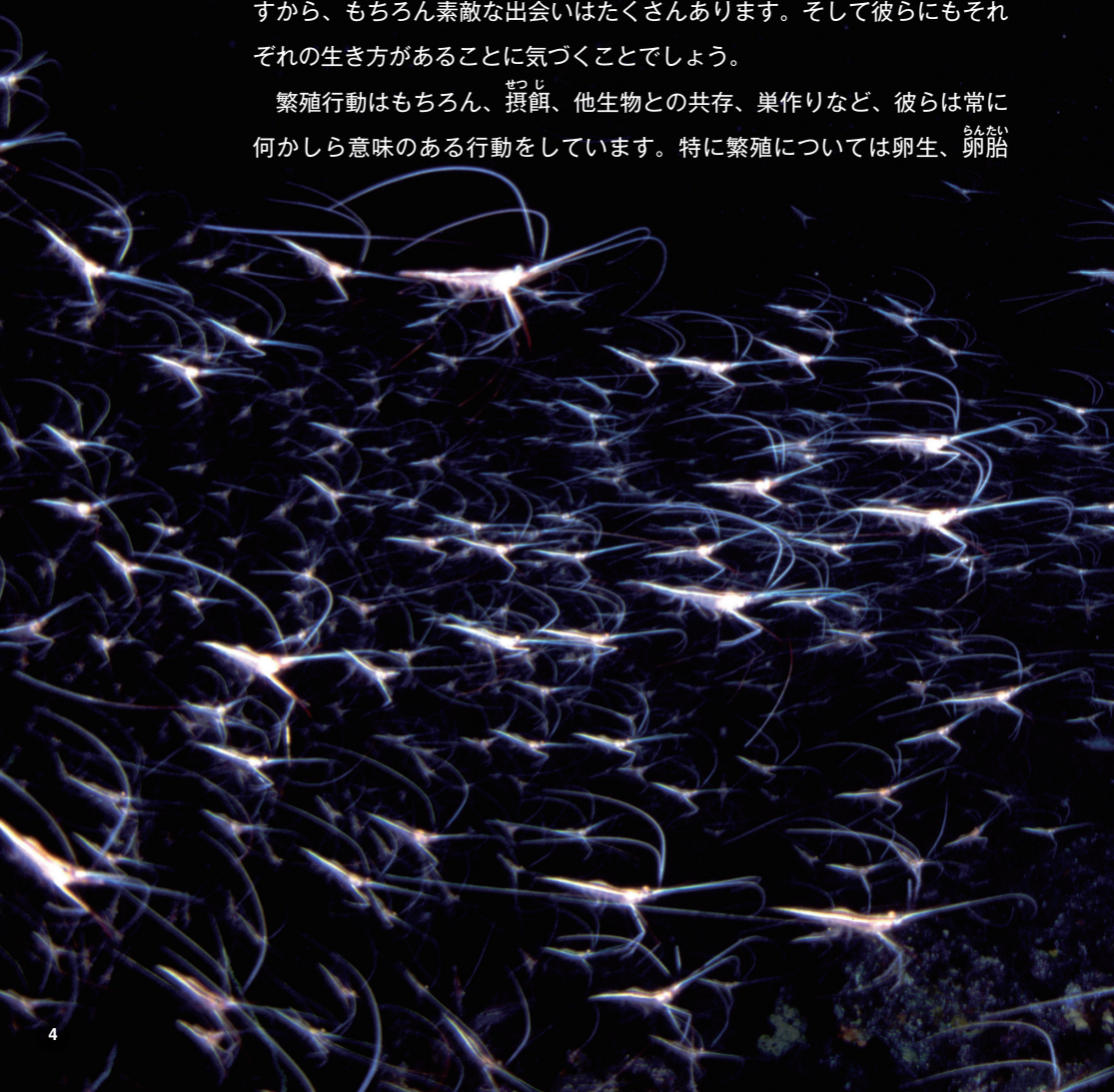


## はじめに

伊豆大島の海、それが私の観察フィールドです。都心から 120km しか離れていない東京都の海ですが、生物相も豊かで様々な生物に出会います。海況が許す限り年間 300 日以上観察に出かけますが、毎日新たな生物と出会い、彼らの興味深い行動にいつも釘付けになります。

初めて海中を覗いてみたとき、多くの方は「こんなにたくさんの生物がいるの？」と驚くことでしょう。無数の生物たちが生息する海中の世界ですから、もちろん素敵な出会いはたくさんあります。そして彼らにもそれぞれの生き方があることに気づくことでしょう。

繁殖行動はもちろん、摂餌<sup>せつじ</sup>、他生物との共存、巣作りなど、彼らは常に何かしら意味のある行動をしています。特に繁殖については卵生<sup>らんせい</sup>、卵胎



せい  
生、胎生、分裂やクローンを形成する生物までいるのでさらに興味は深まります。目の前に見られる生物たちは相手を探し求愛、産卵、子育てまでしているかもしれません。普段動きの少ない生物や肉眼では観察が難しいかもしれない生物たちも、きっとドラマチックな繁殖を行っていることでしょう。

気になる生物と目が合ったなら聞いてみてください。「君は今何をしているの?」と。驚かさなければきっと答えてくれるはずです。さあ、皆さんも一緒に、たくさんの仲間たちが一生懸命生きている海中の世界を探索に行きましょう。

星野 修 2023年1月

【飛行】

夏の日暮れ、抱卵した多くのオキノスジエビは、まるで編隊を組んだ飛行機のように水深75mから10mまで上がってくる。